

PRESS RELEASE

※一部内容を更新いたしました（2023年5月13日）

公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館  
東京都渋谷公園通りギャラリー

東京都渋谷公園通りギャラリー  
アール・ブリュット ゼン&ナウ Vol.3  
「ただよう記憶の世界」

2023年4月22日（土）開幕

東京都渋谷公園通りギャラリーは、2023年4月22日（土）から6月25日（日）まで「アール・ブリュット ゼン&ナウ Vol.3『ただよう記憶の世界』」を開催いたします。



「アール・ブリュット ゼン&ナウ Vol.3『ただよう記憶の世界』」展示風景 撮影：柿島達郎

「アール・ブリュット ゼン&ナウ」は、国内外のアール・ブリュットの動向において、長く活躍を続ける作家と、近年発表の場を広げつつある作家を、さまざまな角度から紹介する展覧会シリーズです。

3回目の「ただよう記憶の世界」では、国内の作家5名をとりあげ、視覚や味覚など身体感覚の「記憶」から生まれた作品を「作家のあるひと時の記憶の世界」として紹介します。

それぞれ独自の感覚と視点により、さまざまなかたちで作品へと姿を変える作家たちの「記憶の世界」。食べた料理や見た風景と自然、幼いころの絵描き歌が作家の手によって鮮やかに現れ、作家の過ごした時間へと私たちに誘います。たとえ同じ時間を過ごしても、記憶はその人唯一のもの。それらの違いも、一人ひとりを形づくる大切なひとつの要素です。忙しく通り過ぎてしまった日々の記憶や、つい忘れてしまいがちな身体で感じた記憶などに少し想いを馳せると、もしかしたら、ささやかでありながらも大切な記憶に再会できるかもしれません。ひとつのかたちにはとどまらない作家たちの「記憶の世界」と、それぞれの今ここにはない時間を、ただよってみませんか。

## アール・ブリュット (Art Brut) とは

元々、フランスの芸術家ジャン・デュビュッフエによって提唱されたことばです。今日では、広く、専門的な美術の教育を受けていない人などによる、独自の発想や表現方法が注目されるアートを表します。

### 本展覧会のみどころ

#### ① 様々な身体感覚の記憶から生まれた作品

本展では、食べた食事や訪れた場所など、5名の作家が身体で感じた記憶などから生まれた作品を取り上げています。

記憶と言っても、形は様々です。わかりやすい具体的な形となって表現されたり、抽象的な形に姿を変え、表現をされたりすることもあります。馴染みのある弁当や乗りものをモチーフとした作品から、どこかで見かけた気がするものまで、さまざまなモチーフから生まれた表現をご鑑賞いただけます。



小林一緒 展示風景 撮影：柿島達郎

#### ② 身近な素材から生まれた作品たち

出展作品の中には、気泡緩衝材を用いた作品などがあります。

その他にもじっくりと見ると、カレンダーの紙やCD、ペニヤの板など、日常のどこかで、見たり触れたりしたことがある身近な素材たちから生まれていることが分かります。

そうした、身の周りにある素材からさまざまな作家の表現へと姿を変えた作品をお見せします。



東本憲子 展示風景 撮影：柿島達郎

#### ③ 歩き、ただよいながら作品をみる

会場には、カーブや直線、多角形のようなさまざまな形からなる壁を立て、いろいろな方法で作品を展示しています。壁の曲線に沿って歩いてみたり、宙に浮いたような作品をのぞき込んだり、見上げたりと、会場を歩きただよいながら、来場者それぞれのさまざまな見方で作品をご覧ください。



戸來貴規 展示風景 撮影：柿島達郎

## 出展作家プロフィール ※順不同・敬称略

### 後藤友康 (GOTO Tomoyasu) 1965-



後藤友康《無題》  
2009 - 2010年 作家蔵  
提供：社会福祉法人みぬま福祉  
会 川口太陽の家 工房集

埼玉県生まれ。

1984年から2019年頃、埼玉県にある「川口太陽の家」に所属し、創作を行った。

色鮮やかなクレヨンやインクで、ベニヤの板やレコード盤、CDなどに描かれた線たちは、幼いころに聴いた絵描き歌がもととなり生まれた表現である。

後藤は音に関心が高く、クラシック音楽をはじめ、家族や施設の職員の声など様々な音をカセットテープに重ねて録音し、たびたび聴いていたという。

絵描き歌の作品を描く際には、独自のアレンジを加えながら描いている。段ボールから始まった、絵描き歌の作品は、ベニヤ板へと変わっていった。はじめは、後藤一人で絵描き歌を歌いながら描いていた。徐々に、施設の職員と共に歌ったり、絵が描かれた木の板を積み重ねたりする仲間たちに囲まれながら描くなど、制作の環境も様々な変化をしていった。

この作品は、後藤自身の幼いころの記憶と、施設で出会い過ごした人々との出会いの記憶に繋がっているように見える。

主な展示に、「工房集展 Fundamental II」（マキイマサルファインアーツ[東京都]、2015年）などがある。

### 小林一緒 (KOBAYASHI Itsuo) 1962-



小林一绪《無題》  
2003年 作家蔵  
提供：クシノテラス

東京都生まれ。

調理師として、蕎麦屋や病院の給食センターなどで勤務した。

18、19歳頃から、小林自身が食べた食事を思い出してメモに残すようになる。26歳頃から現在のような形での制作へと変わった。18歳頃から書き溜めたメモ書きをもとに、当時の記憶を呼び起こしながら描いている。

数々の描かれた食事は、ひとつひとつの食材が見えるように再配置され、まるで弁当の図解を見ているようだ。ペンや色鉛筆などを用いて、サバの塩焼きの焼き目やコロッケの衣の質感、刺身や野菜の食材の色まで、緻密に描きだされている。作品には、絵と共に味の感想や、食材について触れたコメントも添えられている。そうしたコメントを書くことで、食べた時の記憶を、新たな記憶へと生まれ変わらせている。近年は、しかけ絵本のように立体的に立ち上がる作品も制作している。

主な展示に、「Art Brut du Japon, un autre regard」（アール・ブリュット・コレクション[スイス・ローザンヌ]、2018-2019年）などがある。

### 東本憲子 (HIGASHIMOTO Noriko) 1983-



東本憲子《無題》  
2011年頃-2018年 西淡路希望の家蔵  
撮影：宮島径  
提供：ポコラート全国公募展 vol.6

大阪府生まれ。

大阪市にある「西淡路希望の家」に所属。

織物をはじめ、イラスト作品など様々な作品を制作している。

気泡緩衝材（エアキャップなどとも呼ばれる）の気泡に、油性カラーペンや水性インクペンを用いて細かく塗り分けながら直線や面が繋がり、幾何学模様は生み出されている。気泡緩衝材のロール1本を使い、端から端まで細かく塗られている。

気泡をじっくり見つめると、綺麗な丸ばかりだけではなく、ツノのようにすこし丸からはみ出した部分があるなど、気泡一つひとつそれぞれ異なっており、東本が制作をしている時の息遣いも感じられるようである。さらに、ロールを広げると、幾何学模様の中に、桜の花のような模様やクリスマスツリーのような木が、点在して現れる。家族で様々な所に出かけることが多い東本にとって、気泡に生まれた模様は、まるで過ごした時間や見たものたちの記憶を大切に包みこんでいるようである。

主な展示に、「北九州未来創造芸術祭」（北九州市立美術館（本館）[福岡県]他、2021年）などがある。

## 戸來貴規 (HERAI Takanori) 1980-



戸來貴規《にっき》  
2000-2006年 作家蔵  
撮影：大西暢夫  
提供：ポードレス・アートミュージアム NO-MA

岩手県生まれ。

《にっき》は、岩手県花巻市にある「やさわの園」に所属し過ごすなかでの日常的な習慣であった。戸來と、この習慣に注目した職員による、時間をかけた丁寧なやりとりによって、表現について少しずつ明らかとなっていった。

B5判の紙の両面に描き出された模様のような形。戸來自身が「にっき」や「おべんきょう」「おえかき」とも呼ぶこの作品は、日付の数字に1を足した数字を気温として書くなど、独自の規則により構成されている。

1枚のみを一気に描く事はなく、気分に応じて紙を変えながら描いている。裏側には「きょうはラジオたいそうをやりました。」と始まる同じ文章が書かれている。同じ文章でありながらも、一枚一枚塗りつぶされた形が少しずつ異なっているのも魅力の一つである。《にっき》は、小学生のころの連絡帳の習慣がなくなったことで始まったのではないかとされている。作品のなかで、過去の連絡帳の記憶と日常の習慣の記憶が交わりあっているようである。

主な展示に、「JAPON」展（アール・ブリュット・コレクション[スイス・ローザンヌ]、2008-2009年）などがある。

## 松原日光 (MATSUBARA Hikaru) 1975-



松原日光《はたらく船》  
制作年不詳 作家蔵  
提供：art space co-jin「アートと障害のアーカイブ・京都」

京都府生まれ。

16歳頃から自宅にて刺繍を始める。

松原が生み出す刺繍は、1針1針が緻密でありつつ、大胆な形でモチーフを表現している。

家族旅行で訪れた山や景勝地をはじめ、庭で季節ごとに咲く花や植物などをモチーフに、松原の独特な色彩感覚によって鮮やかな色彩と特徴的な形の刺繍へと姿を変える。乗り物を好み、旅行先で見た船など乗り物も多く作品のモチーフとして登場する。松原自身の「船（飛行機）に乗りたい」という想いも刺繍をするきっかけとなっていた。自宅の窓から庭の木が見える部屋で、たくさんの旅行ガイドや写真のアルバム、刺繍糸に囲まれながら、松原の様々な場所と時間に繋がる刺繍の世界が生まれる。松原の生み出した刺繍作品は、松原が旅先で見た景色や、日々の生活の中で目にする植物の美しさを想像する楽しさを伝えてくれる。主な展示に、「共生の芸術祭「幅と奥行き」」（京都府立文化芸術会館他、2016年）、「共生の芸術祭「旅にでること、その準備」」（京都市美術館別館他、2021-2022年）がある。

## 交流スペース

「ただよう記憶の世界」の出展作家に関係する施設を紹介するパネル展示に加え、アール・ブリュットの関連書籍の閲覧スペースとして開放いたします。ぜひご高覧ください。



交流スペース 撮影：柿島達郎

## 関連イベント

学芸員と作家関係者等のゲストによるギャラリートークを予定しております。

### ■ 担当学芸員によるギャラリートーク 【手話通訳付き】

日時 : 2023年5月13日(土) 13:30 - [約60分]  
場所 : 東京都渋谷公園通りギャラリー  
定員 : 10名

### ■ ギャラリートーク with ゲスト① 【手話通訳付き】

日時 : 2023年5月28日(日) 13:30 - [約60分]  
場所 : 東京都渋谷公園通りギャラリー  
ゲスト : 【後藤友康氏 関係者】  
社会福祉法人みぬま福祉会 川口太陽の家・工房集 スタッフ 森田博子氏  
【東本憲子氏 関係者】  
西淡路希望の家 美術部 金武啓子氏  
定員 : 10名

### ■ ギャラリートーク with ゲスト② 【手話通訳付き】

日時 : 2023年6月10日(土) 13:30 - [約60分]  
場所 : 東京都渋谷公園通りギャラリー  
ゲスト : 【戸來貴規氏 関係者】  
社会福祉法人グロー東近江障害施設群 総合施設長 田端一恵氏  
定員 : 10名

※当日、急遽、出演者等変更となる可能性もございます。

※詳細は当ギャラリーWebサイト (<https://inclusion-art.jp>) や公式 SNS にて随時お知らせいたします。

## ご来場者さまの写真撮影について

会期中、展示室での写真撮影が可能です。(一部撮影不可マークの付いた作品は撮影できません。)

- ・非営利かつ私的使用の目的でのみ撮影および利用が可能です。
- ・SNSへ投稿の際は #ただよう記憶の世界 または #東京都渋谷公園通りギャラリー を付けてください。
- ・動画撮影はご遠慮ください。
- ・フラッシュ・レフ板・三脚・自撮り棒・望遠レンズのご使用はご遠慮ください。
- ・撮影機器の落下や展示品に触れる恐れがあるため、展示品に近接しての撮影はお控えください。
- ・まわりのお客さまのご迷惑になるような行為はお控えください。ご配慮をお願いします。
- ・SNS等への写真の公開の際、写り込んだ他のお客さまの肖像権に触れることがあります。当ギャラリーでは責任を負いかねますのでご注意ください。
- ・その他、作品や什器、施設等に危険が及ぶ行為は禁止です。安全確保のため、撮影をお断りするお声がけする場合がございます。

## 展覧会概要

国内外のアール・ブリュットの動向において、長く活躍を続ける作家と、近年発表の場を広げつつある作家を、さまざまな角度から紹介する展覧会シリーズ「アール・ブリュット ゼン&ナウ」3回目となる展覧会。国内の作家5名を取り上げ、視覚や味覚など身体感覚の記憶から生まれた作品を「作家のあるひと時の記憶の世界」として紹介します。

- 展覧会名 : 「アール・ブリュット ゼン&ナウ Vol.3 『ただよう記憶の世界』」  
会 期 : 2023年4月22日(土) - 6月25日(日)  
開館時間 : 11:00 - 19:00  
休 館 日 : 月曜日  
会 場 : 東京都渋谷公園通りギャラリー 展示室1、2  
入 場 料 : 無 料  
出展作家 : 後藤友康、小林一穂、東本憲子、戸來貴規、松原日光  
主 催 : (公財)東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 東京都渋谷公園通りギャラリー
- 展覧会公式サイト : <https://inclusion-art.jp/s/tadayoukioku>  
公式ツイッター : [@skdgallery](https://twitter.com/skdgallery)  
公式インスタグラム : [https://www.instagram.com/skdgallery\\_tokyo/](https://www.instagram.com/skdgallery_tokyo/)



※開催内容等、変更になる場合がございます。予めご了承ください。

## 東京都渋谷公園通りギャラリーとは

2020年2月にグランドオープンした当ギャラリーは、アール・ブリュット等の振興拠点として、アートを通して、ダイバーシティの理解促進や包容力のある共生社会の実現に寄与するため、アール・ブリュット等をはじめとするさまざまな作品の展示や、新設した交流スペースを活用した対話的で創造的な交流プログラムを展開しております。



東京都渋谷公園通りギャラリー外観  
撮影：柿島達郎

### メディアお問合せ／取材・画像お申込み

東京都渋谷公園通りギャラリー 広報担当 (公財)東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 文化共生課)

Tel : 03-5422-3151

Fax : 03-3464-5241

E-mail : [inclusion@mot-art.jp](mailto:inclusion@mot-art.jp)

## 取材・画像使用申込書

東京都渋谷公園通りギャラリー 広報担当 行

E-mail : [inclusion@mot-art.jp](mailto:inclusion@mot-art.jp)

FAX : 03-3464-5241

本展覧会の取材をご希望の際は、本紙に必要事項をご記入の上、E-mail または FAX にてお申し込みください。

また、本展覧会の広報用素材として、**画像データ** 点をご用意しております。 ※出展作品とは異なる場合があります。

掲載ご希望の場合は、以下 1 ( **【広報用画像一覧】** 参照 ) ~ 5 を添えて、当ギャラリー広報担当までご連絡ください。

1. 画像番号    2. 貴社名・貴媒体名    3. ご担当者名    4. ご連絡先メールアドレス・電話番号    5. 掲載予定日

**取材希望**

**画像使用希望**

取材希望日時：

使用希望画像：

貴社名：

貴媒体名：

種別：                            T V    ラジオ    新聞    出版物    WEB    フリーペーパー    その他  
○印をお付けください

発行・放送予定日：

ご担当者名：

Eメールアドレス：

ご住所： (〒                    )

お電話番号：

F A X：

その他：

### 【取材および画像使用時のお願い】

- ・掲載画像に添えて、当該作品のクレジット（作家名・作品名・制作年・所蔵・コピーライト）を明記してください。
- ・掲載画像のトリミング、文字載せはお控えください。
- ・記事掲載・放送日が決まりましたら、事前にご連絡ください。併せて、掲載内容もお知らせいただけますと幸いです。
- ・掲載・放送後、掲載誌（紙）PDF、DVD、CD、URL 等のご惠贈をお願いいたします。

## 「アール・ブリュット ゼン&ナウ Vol.3 『ただよう記憶の世界』」 【広報用画像一覧】



① 後藤友康《無題》2009-2010年 作家蔵  
提供：社会福祉法人みぬま福祉会  
川口太陽の家 工房集



② 小林一緒《無題》2003年 作家蔵  
提供：クシノテラス  
※参考画像



③ 東本憲子《無題》2011年頃-2018年  
西淡路希望の家蔵 撮影：宮島径  
提供：ポコラート全国公募展 vol.6  
西村一成《no title no. 1 (20191217)》  
2019年 作家蔵



④ 戸來貴規《につき》2000-2006年 作家蔵  
撮影：大西暢夫 提供：ボーダレス・アートミュージアム



⑤ 松原日光《はたらく船》制作年不詳 作家蔵  
提供：art space co-jin「アートと障害のアーカイブ・京都」



⑥ 「アール・ブリュット ゼン&ナウ Vol.3  
『ただよう記憶の世界』」展示風景  
撮影：柿島達郎



⑦ 「アール・ブリュット ゼン&ナウ Vol.3  
『ただよう記憶の世界』」展示風景  
撮影：柿島達郎



⑧ 東京都渋谷公園通りギャラリー外観  
撮影：柿島達郎



※出展作品とは異なる場合があります。

※その他画像をご希望の際は、以下、広報担当までお問合せください。

### メディアお問合せ／取材・画像お申込み

東京都渋谷公園通りギャラリー 広報担当 (公財) 東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 文化共生課

Tel : 03-5422-3151

Fax : 03-3464-5241

E-mail : [inclusion@mot-art.jp](mailto:inclusion@mot-art.jp)